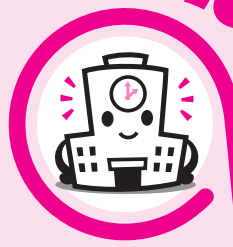


つながる



学校と家庭の学び

人と向き合う姿勢を育む 「親子会議」

茨城県小美玉市立堅倉小学校

小美玉市立堅倉小学校では、学校が設けたテーマについて親子で話し合う「親子会議」に年6回取り組んでいる。子どもにも保護者にも負担を感じさせないような工夫を重ねた結果、開始からわずか1年弱で、親子のコミュニケーションが増え、生活習慣にも改善が見られるようになったという。

年6回の「親子会議」で 親子の本音での会話を促す

茨城県の中央部に位置する小美玉市立堅倉小学校は、「教師の指導力向上」「子どもの生活習慣改善」「友だちを思いやる心の育成」を柱として、学びに向かう集団づくりに取り組んでいる。

その一環として、2010年度に「親子会議」を始めた。これは各学期に2回ずつ、学校が設けたテーマについて家庭で話し合ってもらおう取り組みだ。話し合いの内容と感想を

親子で「親子会議シート」(図)にまとめて担任に提出し、担任はコメントを書いて返却する。返却後は、話し合いの度に振り返れるよう、連絡帳に貼って保存する。また、担任は控えをとり、管理職とも共有する。細谷光太郎校長は、「親子会議」のねらいを次のように説明する。

「背景として、子どもが親と向き合う機会が少なく、保護者が親としての思いを伝えられていないこと、また、保護者アンケートの結果などから、学校の取り組みが家庭に十分に伝わっていないがありました。

本校が目指しているのは、他者の気持ちを理解し、気遣おうとする児童の育成です。それに向けて、まずは子どもたちにとって最も身近な存在である保護者の気持ちを理解し、思いやる心を育みたいと考えました。話し合う場を設けることで、親子が向き合い、更には学校への理解を深めてもらえたらと考えたのです」

「親子会議シート」の感想からは保護者と子どもが真剣に向き合う様子がうかがえる。「家族が改まって会議をするのは緊張したが、みんな

た」(子ども)、「普段、なかなか話せなかったことを親子3人で話せたので、とても良い会議でした」(保護者)といった具合だ。

菊池泰三教頭は、家庭に潜在していたニーズに応えられたのではないかと話す。

「子どもは『自分の頑張りや努力を親に認めてほしい』と欲求が強い。すし、保護者は『子どもと話したいけれど、面と向かうと話づらい話題がある』と欲求が強い。『親子会議』は、親子が本音で話すきっかけとなったようです」

親子会議のテーマ一覧

- 第1回 我が家のルール再点検
- 第2回 聞いてみよう ぼくわたしの 生まれたころのこと
- 第3回 我が家の運動会
- 第4回 守れてますか 我が家のルール
- 第5回 親子で挑戦! 家庭学習
- 第6回 来年度の抱負!

「親子会議シート」に書かれた感想の例

- ◎「今までなにげなく約束していたことを、改めて家族で話し合くと、みんなの認識が確認できて良いと思った」(第1回/保護者)
- ◎「当時のことを思い出し、懐かしく、こんなに成長したんだと実感した。とても心温まる時間になった」(第2回/保護者)
- ◎「いちばん頑張ったところを褒めてもらい、とてもうれしかった」(第3回/子ども)

親子会議シート

堅倉小親子会議シート
(第3回)

【配布日 9月15日(水) 一提出日 9月21日(水)】

【はもさ会議】 ※ 第1回で決めた我が家のオリジナル会議名を記入しよう。

学年	組	名前
※ 兄弟姉妹がいても、1人1枚作成して、担任の先生に届けます。		
◎ 2学期最初の親子会議 第3回のテーマは 我が家の運動会 練習や準備のことで 運動会当日のことで		
【ぼくやわたしのこと】 ・ぼく、わたしが一番頑張ったこと、うれしかったこと、くやしかったこと… 「ドラゴンボール」して「みんなが、たかたかしたこと!」 ・ぼく、わたしの感じた 友だち(同じクラス 他の学年)の すごいなあ! 「みんなが たかたかをし、且かやあって一致団結した事。」		
【お家の方から一言…お家の方が見つけた我が子のがんばり事】 ・委員の仕事と責任とも、頑張ってやりました。 ・皆で協力あって、フラスの団結力がすく良かったです。		
◎ 第3回親子会議の感想 ・ビデオを見ながら、話をし、すごくありがた! ・心に残る運動会だ。込めてあげておめでとう! みんなが、協力し合って、素晴らしい運動会に仕上がった。		

※お子さんの読めない漢字は、保護者の方が読んであげてください。
※1年生など、お子さんがまだ文字が十分に書けないときは、保護者の方が書いてあげてください。

「親子会議シート」は全学年共通。学年によっては未習漢字も使われているが、あえて仮名書きにしたり、振り仮名を付けたりしない。子どもが読めない漢字を保護者が教えてあげることで、会話を弾ませるきっかけにしてほしいというねらいだ。また、同じく会話のきっかけとなるように、「頑張ったこと」「友だちに対して感じたこと」など、テーマごとに会話の切り口の例を示している



「親子会議シート」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます

<http://benesse.jp/berd/> →情報誌ライブラリ(小学校向け)

保護者の負担を減らし
「親子会議」への参加意欲を向上

「親子会議シート」の提出率は、第1回から全学年平均で90%を超え、第5回にはほぼ100%に達した。それには、同校が次のような工夫を重ねたことが大きい。

話しやすいテーマを設定

テーマは、管理職を含めた教師全員で案を出し合って決める。ポイントは、どの家庭でも気軽に話し合える話題であることだ。

「学習習慣や生活習慣の改善など、私たち教師が取り上げたい話題ばかりでは、子どもも保護者も気負ってしまい、楽しい会話にならないでしょう。そのため、学校のことだけに

茨城県小美玉市立堅倉小学校

◎1873(明治6)年開校。教育目標を「確かな学力と豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる児童を育てる」とし、その一環として、2010年度、「親子会議」を始めた。

校長 細谷光太郎先生
児童数 354人
学級数 14学級(うち特別支援学級2)
所在地 〒319-0106
茨城県小美玉市堅倉 1698-6
TEL 0299-48-0029

URL <http://www.city.omitama.ibaraki.jp/katakura-e/>



小美玉市立堅倉小学校校長

細谷光太郎

Hosoya Kotaro

「子ども一人ひとりに対して全力でぶつかる愛情を持った教師集団でありたい」



小美玉市立堅倉小学校

菊池泰三

Kikuchi Taizo

教頭
「目の前の子どもで勝負」



小美玉市立堅倉小学校

鈴木謙二

Suzuki Kenji

教務主任
「子どもの変化を後押しできる教師でありたい」

*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

こだわらずにテーマの幅を広げようと心掛けています」(菊池教頭)

■無理のない日程

「親子会議シート」の配付から提出までの期間は、必ず日曜日を挟んで4日以上設けている。各家庭は、期間内で話し合いの日を任意に選ぶ。

「どの家庭でもじっくり話し合い、『親子会議シート』も親子一緒に記入してもらえよう、日程にゆとりを持たせています。共働きの家庭でも日曜日は時間をつくりやすいだろうと考えました。また年間の実施回数も、家庭に負担を感じさせないよう配慮して決めました」(菊池教頭)

■保護者への還元

「親子会議シート」に書かれた話し合いの内容・感想は、他の保護者の参考になりそうなものを選び、回が終わるごとにプリントにして全家庭に配布している。「学年だより」で紹介する学年もある。

「学校が話し合いの結果をどう受け止めているかを、きちんと家庭に報告しています。そうしてこそ、家庭と学校のつながりは深まるのです。私も、多くの人に知ってほしい親子のコメントは保護者会などで伝えたり、毎月発行する『学校だより』に

載せたりしています」(細谷校長)

会話を通って

親子が互いに向き合えるように

同校が「親子会議」を始めてわずか1年足らずだが、成果は子どもの様子に徐々に現れている。教務主任の鈴木謙二先生は、子どもと話していることが分かる」と話す。

「子どもたちからお母さんだけでなく、お父さんの話を聞く回数が以前よりずっと多くなりました。『一緒にキャッチボールをした』など、楽しそうに教えてくれます。お父さんには『学校でこんなことをした』と話しているようです」

保護者からは、「子どもの成長を実感している」という声がどの回にも寄せられている。

「『親子会議シート』の感想を読むと、保護者が子どもの多様な側面に向けてくれていていると感じます。『人の話を落ち着いて聞く』『目をみて話す』など、子どものちよつとしたそぶりの変化を見取って褒めてあげているようです。子どもは『褒められてうれしい』『もっと頑張ろう』と思うでしょう。学習をはじめ、子

どもの生活すべてに良い影響があると思います」(鈴木先生)

生活習慣が改善する兆しも見られる。月初めの一週間の生活を記録する「振り返りカード」に「朝、自分で起きられた」と答える子どもが増えているという。

「9月には全校で38%でしたが、12月には50%を超えました。第1回と第4回の『親子会議』でテーマとした『我が家のルール』では『毎朝、一人で起きる』というルールを設ける家庭が目立っていました。親子で話し合って決めたためか、きちんと守れているようです」(鈴木先生)

細谷校長は、今後について次のように話す。

「保護者や友だちなど、自分の周りの人たちとしっかり向き合えるようになってはじめて、互いに高め合う関係や全員で学びに向かう姿勢が生まれると考えています。『親子会議』によって、子どもたちには少しずつ変化が現れてきました。そうした変化を一つひとつ積み重ねることは、遠回りのようですが確実に、学力向上へとつながります。今後も保護者の協力を得ながら、焦らずに続けていきたいと思っています」

授業でご活用いただける4年生・6年生向けの無料教材の予約受付中!

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2010年度は、のべ約11,000校から約187万冊ものお申し込みをいただきました。

2011年度は、①小学4年生の児童向けに、授業で使える「4年生夏休みわくわく計画表」と「わくわく夏休みひみつ BOOK」、②小学6年生の児童向けに、キャリア教育の授業に役立つ副教材を無料でご提供いたします。ただ今、予約受付中です。詳しくは巻末のカラーページのご案内、または本誌同送のチラシをご覧ください。ぜひ貴校の教育活動にお役立て下さい。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

申込締め切り

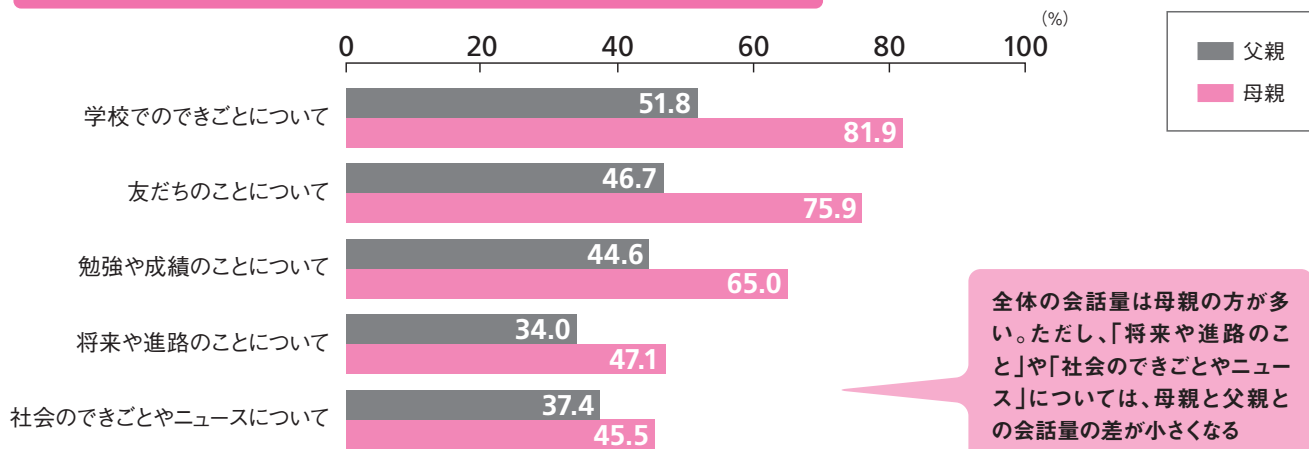
2011年

7/7 木



保護者と子どもの会話の内容は、相手によって変化する

保護者との会話の内容(小4~小6生)



全体の会話量は母親の方が多い。ただし、「将来や進路のこと」や「社会のできごとやニュース」については、母親と父親との会話量の差が小さくなる

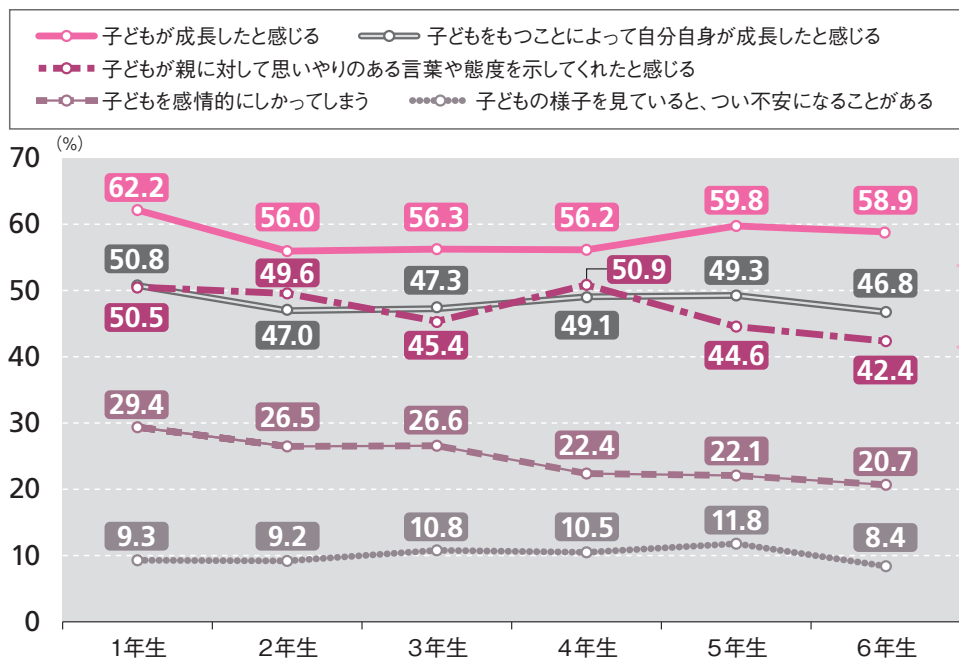
注) 数値は、「よく話をする」と「ときどき話をする」を合計した割合

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」

調査時期は2009年8~10月、調査対象は全国の小学4年生~高校2年生(うち小学生は3,561人)、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

母親の約6割が、子どもの成長を感じている

子育ての場面における母親の意識の変化(小1~小6生)



子どもの成長を感じる割合は60%程度、自分自身の成長を感じる割合は50%程度で、学年段階による大きな変化はない

子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる割合は、5・6年生で下がる傾向が見られる

注) 数値は、「よくある」「時々ある」「あまりない」「ぜんぜんない」のうち、「よくある」と答えた人の割合

出典: Benesse教育研究開発センター「第3回子育て生活基本調査」

調査時期は2007年9月、調査対象は首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の小学1年生~中学3年生の子どもをもつ保護者7,282人(うち小学生の保護者は3,625人)、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!
<http://benesse.jp/berd/>
※「調査・研究データ」コーナーをご覧ください